

第 6 回 食品安全文化の可視化に関する研究会

【ガイダンスチーム】議事概要

日時：2026 年 1 月 14 日（水） 14:00～（閉会予定 16:30）

場所：ハイブリッド開催（会場（合同庁舎 4 号館）+Teams）

次第

1. 情報共有
2. 意見交換
3. 決定・確認事項

情報共有

● ガイダンス資料の構成と平易化

- FCP のホームページに合わせ、二画面構成などで体裁を整理中。
- 中小企業の現場でも理解できるよう、専門的な説明を AI 等も活用して**「平易な文章」に書き直す方針**を継続。
- 実施前ガイダンス、注意事項、評価シートの使い方、分析事例、実施後の流れといった章立てで構成予定。

● 評価ツールのアップデート

- アンケート項目は最新の **29 項目版**に更新。
- 紙およびウェブ（Microsoft Forms 等）の両方に対応。ウェブ回答データを反映シートに貼り付けることで、レーダーチャートや職位別スコアが自動生成される仕組み。
- 属性（管理者、監督者、作業員等）ごとの回答率も自動計算されるよう改良。
- **多言語対応（7 カ国語）**の準備が整っていることを確認。

意見交換

● 「因子」と「側面」の呼称と GFSI との整合性

- GFSI（世界食品安全イニシアチブ）の「5 つの側面（Dimension）」に対し、本研究会では独自の「5 つの因子（Factor）」を定義している。
- 議論のポイント：
 - 両方の用語が混在すると現場が混乱する懸念。
 - GFSI 準拠を求める企業への配慮として、**関連性を示すマトリクス（相関表）**は必須。
 - 「なぜ FCP では独自の因子を用いるのか」という背景（中小企業向けに分析しやすく再構築した等）を**前書き（ストーリー）**として明記する。

● ツールのカスタマイズ範囲について

- 「アレンジ可能」という表現が、設問自体の変更を指すと誤解されるリスクを指摘。
- 実際には、システム上の集計ロジックを維持するため設問の変更は不可。
- 各組織の実態に合わせ、職位の呼称（例：「管理者」を「工場長」と読み替える等）の**「読み替え」を許容する**方向で文言を整理する。

● ベストプラクティスの内容検討

- 以下の 3 社の事例を、中小企業が取り入れやすい視点で肉付けする。
 1. **A 社**： 経営層が責任を持つ「レコグニション（表彰）制度」の土台作り。
 2. **B 社**： アンケート後の深掘り調査や個人面談を通じた課題抽出。
 3. **C 社**： 楽しみながら参加できる「フードセーフティウィーク」やクイズ大会の事例。

決定・確認事項

- **資料の公開形式**： 一括ダウンロードだけでなく、必要な章ごとに分割してダウンロードできる形式を検討する。
 - **因子の定義**： 5 因子の定義文は、現場の従業員に伝わるよう「口語訳」に近い平易な表現にブラッシュアップする。
 - **評価シートの仕様**： 集計の利便性を優先し、エクセル上でのグラフ可視化や属性別差分の色付け機能の有無を最終調整する。
-